

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202171		
法人名	社会福祉法人 三省会		
事業所名	グループホームやまずみ荘	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市山祇町383番地1		
自己評価作成日	平成 30年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成 30年 11月 30日	評価確定日	平成30年1月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者中心の生活を考え、出来る事、出来ない事をしっかり把握し、入居者の方が楽しく生き甲斐をもって生活できるように支援する」を目標に挙げて毎日の支援を行っている。近所のストアへの買い物や、外出ドライブへお連れしたり、市内の地域イベントへ参加する等、積極的に地域との関わりを持てるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保市にある“グループホームやまずみ荘”では、毎週木曜日に法人敷地内の温泉を利用でき、入居者の方々を2人ずつお連れしている。本館のロビーにカフェ室もでき、午後の時間に散歩をしながらカフェでお茶を楽しんでいる。併設の地域密着型サービス事業所(小規模特養、認知症デイ、小規模多機能等)と合同行事(納涼会、運動会など)を開催し、楽しく交流する機会も作られている。日曜日は外出を楽しまれ、季節の花見やドライブ、魚市場やよかもん市見物、買い物など、地域に積極的に出かけており、グループホームに入居後、「表情が明るくなった」「元気になった」等の感想を家族から伺う事も多く、職員も嬉しく思っている。職員のチームワークも良く、医療関係者とも密に連携が行われ、日々のレクやリハビリ等も継続している。ホーム全体が明るく、家庭的で、穏やかに過ごされているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に『法人の理念』と『グループホーム理念』を掲示し、いつでも復唱できるようにしている。 年度初めに、目標を定め、職員間で理念を共有し、実践に努めている。	「家庭的な雰囲気の中で自立し、やすらぎのある生活を送って頂けるよう努めます。地域の人と交流を図ろう」という理念であり、“自立”と言う視点を大切に、できる事は自分で行えるよう“待つケア”を続けており、ケアプランに基づいたケアが実践できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週日曜に市内にドライブへお連れし馴染の場所を巡ったり、買い物にお連れして、地域とのつながりが途切れないようにしている。	法人行事(納涼祭や運動会、夏祭り等)で、子ども達やボランティアの演奏等を楽しまれている。地域の祭りに参加し、山祇神社夏祭りの神輿ぐりや福石観音千日祭に行かれている。小中学生のホーム見学もあり、今後も一緒に会話をしたり、交流する機会を増やしていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流委員会による介護教室の『認知症ケアについて』等、様々なテーマで勉強会を開催して、地域の方や家族に参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営方針や年間目標と達成状況、毎月の行事報告やサービス提供状況、職員の配置状況、研修参加状況などを運営推進会議にて報告し、意見や要望をいただきサービスの向上に努めている。	日々の生活の写真をプロジェクターで投影している。事業計画や実践状況を報告し、災害対策も検討している。介護保険の制度改正の報告や法人内の管理栄養士からの講話も企画し、情報交換に繋げており、参加者からも地域行事などを教えて頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際、行政からの情報や指導を頂いている。 市グループホーム協議会を通して出される佐世保市の情報を受け、認知症ケアの研修などにも参加し、サービスの向上に取り組んでいる。	管理者や計画作成担当者が市を訪問している。運営推進会議の案内や報告書を届けており、市の職員とは顔馴染みである。運営推進会議でも、介護報酬改定時の「介護給付費算定に係る体制等に関する届出書」等の提出期限をアドバイス頂き、研修案内等も頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束の適正化のための方針書』を整備し、2ヶ月毎に身体拘束O推進委員会に出席し、話し合った内容を事業所で報告、議事録回覧し周知している。 身体拘束に関する内部・外部研修に積極的に参加し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束は全くしていない。職員が入居者の想いに寄り添い、穏やかに過ごされている方が多い。職員全員が「入居者の行動には意味がある」事を理解し、外出希望の方には一緒に散歩をされたり、転倒リスクも観察し、移動時の見守り等を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の内部・外部研修へ出席し、虐待や不適切ケアが無いケアを実践している。 事業所に「虐待の芽チェックリスト」を掲示し、言葉遣いや態度、表情などに配慮している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要な入居者はいないが、制度について研修を受けた職員が必要に応じて相談助言できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書・重要事項説明書・各同意書等を持ちいて契約に関する説明を丁寧に行い、理解・納得いただくよう努めている。 介護報酬改定時は、文書で通達し、重要事項説明書に改めて同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族代表から意見や要望を聞いたり、家族面会時やケアプラン説明時に意向を聞いて、職員間で検討し運営に反映させている。聞き取った情報は申し送りノート等を活用し、職員間で情報共有している。	面会時や電話で健康状態や暮らしぶりを家族に報告している。家族交流の機会は多く、事前に交流会の日程や内容を家族に連絡し、意向確認をしている。家族から「できる事を増やして欲しい」等の要望もあり、日々の活動に活かしている。	日々の活動内容は写真に撮っており、ホームの廊下などに、情報発信の機会を増やしていく予定である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎朝の申し送り、セクション会議・ケース会議等へ参加して、職員の意見や提案に対して助言し、運営に反映している。 管理者と主任は、法人の運営会議に参加して各事業所との情報共有、意見交換を行っている。	長い職員も多く、異動してこられた職員とも結束している。理事長や管理者も外出支援等を重視し、法人の各事業所ごとに車両の利用曜日を決めて下さっている。全職員が年度毎の研修受講や資格取得の目標を立てて実践しており、職員同士の情報交換も行われている。	全ての職員が情報共有できる仕組みをつくり、入居者が過ごされているホール等での情報交換の仕方や記録物の管理に留意していく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた手当支給し、積極的に資格取得や外部研修を後押ししている。 平成30年度より、人事考課規程を制定し、職員一人一人の能力と実績に応じて、賞与等へ反映する体制を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年度毎の研修・資格取得の計画目標をたて、実践している。 外部研修以外は、法人の新人研修や、各委員会主催の内部勉強会を開催しており参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会主催の定例会・研修会に参加し、情報交換や意見交換を行い、事業所の発展やサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族やケアマネ、事業所、医療機関等より本人を取り巻く環境から、関連する情報を収集し、かつ本人に対面し、意向や不安を聞き取りながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込みの段階から、家族の意向や不安点、疑問点を聞き取り、事業所で出来ることや取組みを説明し、協力をいただきながら安心して暮らせる(預けていただける)施設作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用者・家族、ケアマネ、事業所、医療機関等の利用者を取り巻く環境から、心身の状態(病歴含)・生活歴、性格等の情報を把握分析(アセスメント)し、初期対応を見極め支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活のなかで、一人一人の能力に応じたお手伝い(洗濯物たたみやお盆拭き等)や軽作業をお願いすることで、役割や生き甲斐、楽しみ作りが出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時に、入居者の生活状況を細やかに家族へ報告し、目標や意向、問題解決にむけての支援について一緒に考えて頂いている。病院の定期受診時は出来るだけ家族に付添い協力いただき本人の状態を把握して頂けるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人知人の面会がしやすいよう挨拶や声かけ対応に努めている。 病院受診や買い物、ドライブで馴染みの場所を通る際には、思い出してもらえよう、声かけしながら外出支援している。	馴染みの方がホームに遊びに来て下さり、教会の神父様も定期的に来て下さる。日々のゴミ捨ての時やドライブの時に、「あそこが私の家よ」などと教えて下さり、自宅近くを訪問をしたり、家族とお墓参りに行かれている。夏祭りの時に馴染みの方と再会される方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所内のあちこちにソファを設置し入居者同士がどこでもくつろげる空間作りを行っている。 入居者同士の関係性や相性に配慮しながら食堂ホールの席配置を行い、職員が間に入り声かけながら関係作りに努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の際は、お見舞いに行っている。 施設に戻れる時は、元の生活に戻れるような支援をしている。 万一、死亡退所時は、葬儀に参加させてもらい家族への話しかけを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通して入居者の思いや希望を把握するよう努めている。知り得た事柄は、申し送りや伝達ノート、ケース会議録で情報を共有して、入居者の思いに沿えるようにしている。	日々の暮らしの中で、入居者の思いを伺っている。日々の介護ケース記録にも、ご本人の表情やセリフが残され、毎朝の脳トレなどを通して、ご本人の“できる事”と“できなくなっている事”の把握に努めている。「居室の希望」「外出の意向」等も把握し、希望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、居宅ケアマネ等から生活歴や馴染みの暮らし、性格や嗜好等の情報を収集し、プロフィールを作成し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の生活状況を細やかに申し送り、記録して全職員が周知把握して毎日のケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を聞き、職員の意見やアイデアを反映しながら、計画作成担当者がケアプランを作成している。ケアプランは3ヶ月毎に見直し、現状に即した計画を作成している。	入居者や家族の意向を大切に、ケース会議で検討している。主治医や看護師の意見も頂き、計画作成者が作成した計画の原案を職員全員で検討している。「日記を書く」「散歩」「ラジオ体操(歩行訓練)」などの日課と共に、家族との交流などの楽しみも盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や支援の中で知り得た情報や気づきを申し送りや、ケース記録、申し送りノート等に記録して情報共有している。その中から今後必要な支援や対策を検討し、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の地域密着型サービス事業所(小規模特養、認知デイ、小規模多規模多機能等)と連携して合同行事(納涼会、運動会)を開催し交流を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのストアへの買い物や、外食へお連れしたり、近隣の神社の祭りや地域イベントを見学する等、積極的に地域との関わりを持つよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2ヶ月毎の病院への定期受診をはじめ、毎週火曜の訪問看護及び、必要に応じた往診(耳鼻科、歯科など)にて健康管理している。協力医療機関以外にも、共済病院や総合病院など家族の協力を得ながら受診されている。	看護師が毎日訪問し、体調管理をしている。看護師はオンコールで24時間体制になっており、職員の安心になっている。協力医の往診や耳鼻科等の医師の往診もあり、受診結果は家族と共有している。医師から血圧測定回数等の指示もあり、職員も日々体調確認を続けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護の中での状態変化や気づきを、訪問看護(毎週火曜)や法人内の看護職へ伝え、体調を管理し、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、心身状況や生活状況等の情報を病院へ報告している。入院期間中も病院と連絡を取り、状態把握に努め、退院後はスムーズに受け入れが出来る体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合における対応に係る指針』や『看取り介護マニュアル』を整備し、入所時に事業所で出来ることを本人や家族に説明している。	入居契約時にホームの方針を説明し、意向確認をしている。入居者が重度化された場合は、家族と主治医、看護師等と話し合い、必要に応じて特養等の入所手続きも行われている。ホームでの看取りケアも行われ、最期まで精神誠意のケアが行われており、『看取り介護マニュアル』を作成し、看取りの勉強会も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『容体急変時緊急時の連絡・対応マニュアル』を整備し、職員に周知している。また法人内で定期的に勉強会が開催され参加している。夜間は法人内の宿直看護職員や、訪問看護ステーションが24時間オンコール体制で待機しており、緊急時の対応に備えている。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	『消防・防災マニュアル』や『非常災害時対策マニュアル』を整備している。また法人全体の防火避難訓練を年2回実施しており消防署の指導を受けている。その他、備蓄品を整備し、地域との防災協定を結び、災害対策に取り組んでいる。	母体施設全体での訓練を年2回、系列事業所との訓練を年4回実施し、全体訓練(29年12月は夜間想定)の際は消防署と一緒に訓練している。公民館長を通して、災害時に地域の方への応援依頼を行っており、災害時に地域の方をホームに受け入れる体制も整えている。水や食料、衣料品等も常時準備している。	
----	------	---	--	--	--

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の目線に合わせ尊重した言葉かけを行っている。居室入室時にはノックや声掛けを行い、トイレ使用時は傍を離れ見守りし、入浴は個室で行っている。	職員は入居者の自尊心への配慮に努めており、言葉遣いに気をつけ、入居者の目線に合わせるようにしている。事業所内に『虐待の芽チェックリスト』を掲示し、自分の言動を振り返り、先輩職員の指導も受けている。今後も個人情報管理等の振り返りを行う予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように一人一人に合った言葉かけを行い傾聴する。思いが言葉で表現できない方は、表情などで読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の趣味や体調に合わせ、生活が楽しく出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は衣服夜はパジャマに更衣の声掛けや介助を行なっている。朝は整髪や髭剃りをして頂き女性にはヘアセットや爪にマニキュアを楽しんで頂き希望時は外部業者により散髪や髪染めを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立により栄養のバランスがとれた食事と嚥下状態に合わせた食事を提供している。又行事や季節の食材などを言い合い楽しみをもって貰っている。食事の準備が出来る方には協力をして貰っている。	ご飯はホームで炊いている。3食、法人の厨房で美味しい料理が作られ、管理栄養士との情報交換も密に行われている。職員も一緒に食べており、入居者とゆっくり会話をされている。鍋会なども楽しまれ、入居者も野菜を切ったり、お盆拭きやコップ並べ等も手伝って下さる。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士による献立で、バランスの良い料理を提供している。主食はその方に合った量を提供し一日の水分量を一人一人確認しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで清潔保持をされている。義歯は毎日外して消毒を行い、自分の歯がある方は磨いてもらい、介助が必要な方は支援している。歯科往診にて指導を貰っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えができていたのでその都度付添い、下着の上げ下ろし等の支援を行っている。	排泄チェック表で排泄感覚を把握している。トイレを使用する方が多く、下着を使用し、排泄が自立している方もおられる。必要に応じてトイレ誘導の声かけを行い、トイレでの排泄ができるようになられたり、紙パンツの使用が減った方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の歩行訓練に散歩などを取り入れ便秘予防を行っている。水分補給も個人により行っている。排便が3日ない時は看護師に相談し指示された緩下剤などでコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックの確認を行っている。入浴拒否がある方は次の日に入ってもらったり1対1での入浴で職員との会話を楽しんでもらいながら個人に合わせた時間で楽しんで入ってもらっている。	毎週木曜日に法人内の温泉を利用でき、2人ずつお連れしている。日々の入浴はホームの浴室を利用し、長湯を希望される方は最後にゆっくり入浴されている。入浴好きな方が多く、湯船で昔話をされたり、菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。体調に応じてリフト浴も活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣に合わせた時間、ペースを崩さないようにしている。昼食後は一時間程休息をして貰い、夜は遅くまで起きられている方にお茶や補食などお出し好きな事をしながら安眠できる体制で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	予約管理簿に入居者一人一人の薬の説明書をはさめており、どんな薬を飲んでいるか職員は把握に努めている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中に脳トレーニングの時間を設け風船バレーや歌を唄ったりして楽しんで頂ける様に努めている。また、本人希望にて編み物をされお菓子を食べたりとくつろいでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の入居者の体調に合わせて天気の良い日は遊歩道まで散歩したり、天気が悪い日は荘内散歩をして気分転換をして貰っている。毎週日曜日は市内ドライブで町の変化などを楽しんでもらっている。	本館の1階に喫茶ができ、コーヒーを飲みに行かされている。入居者も台車を押してゴミ捨てに行かれたり、散歩をされている。季節の花見(桜、菖蒲、秋桜等)や烏帽子岳、西海橋等のドライブを楽しまれ、西海町でミカンを購入し、ホームで美味しく食べられている。家族交流会を行い、大塔イオンで買物や食事を楽しまれている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金はもっていないが、買い物へ出掛けショッピングを楽しんでもらっている。家族に了解をもらい預り金で個人の買い物をされレジを通り買い物の楽しみを味わっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者への手紙が来たら本人へ渡し、読めない方には代読をし家族の気持ちを伝えている。家人からの電話は、腰を掛けてゆっくり話せるような支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内や廊下にいつでも座りくつろげるようにソファーをおいている。日光浴を楽しんだり、マッサージ機でくつろいだり、お喋りを楽しんで頂ける様に工夫をしている。季節感を味わって頂ける様に装飾品を作り、飾って季節を楽しんで頂ける様に努めている。	リビングからの見晴らしが良く、夏はよしずで日差し対策をしている。換気や掃除、整理整頓も徹底しており、入居者と作られた季節毎の掲示物が貼られている。リビングや廊下にソファーがあり、思い思いの場所で過ごされている。今後も廊下などに壁新聞を増やしていく予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士で会話が出来るように、テーブルや椅子の配置を工夫したり、ソファーの設置をしている。一人になりたい時は居室で過ごして頂ける様な対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、自分の家で使っていた物を持ちこんで頂き、自分の部屋だと安心して過ごせる居心地の良い空間になるように支援している。	自宅での生活環境を大切に、畳を置いて布団を敷いている方もおられる。テレビや時計、飾り物、テーブル、ソファー等を置かれ、家族の写真やぬいぐるみを飾られている。マリア像の前で聖書を読まれたり、ご本人の希望で、職員が毛糸と編み棒を準備し、編み物をされている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況に合わせてベットや床頭台の配置を工夫して、手すりの配置を考慮し安全な行動が出来る自立支援を行っている。また、居室が分からない方へは部屋の前に名前を書いた貼り紙をして間違いがないように工夫している。		
----	--	--	--	--	--